

令和 3 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	14	学校名	茨城県立常陸大宮高等学校						課程	全日制		学校長名		大曾根 淳			
教頭名	堀江 滋彦											事務（室）長名		大森 康弘			
教職員数	教諭	36	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	4	実習教諭、実習講師、実習助手		5	事務職員	3	技術職員等	3	計	57
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科		3	9	5	11	3	18			11	38	3				
	機械・情報技術科		32	0							32	0	1				
	機械科				28	0	27	0			55	0	2				
	情報技術科				13	1	14	1			27	2	2				
	商業科		4	10	7	5	8	12			19	27	3				

2 目指す学校像

- (1) 向上心を持ち自分に適した進路を実現できる学校
- (2) 学習した知識や技能を基に資格等の取得ができる学校
- (3) I C Tを効果的に活用できる学校
- (4) ルールやマナーを大切にする学校
- (5) 特別活動が充実した学校
- (6) 地域に根ざした信頼される学校
- (7) 働き方改革を推進する学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	学習への取り組みが十分でなく、真の学力が身についていない。	生徒一人一人の基礎学力の定着を図れるか。 進学指導・課外指導の充実及び継続化を図れるか。
進路指導	コミュニケーション力に課題があり、自己の能力を過小評価し、目標に向かって頑張る姿勢を育む必要がある。	勤労観、職業観を1年次から育成できるか。外部講師等の効果的な活用により進路指導の相乗効果を上げられるか。就職先の開拓をよりすすめられるか。個別面談により生徒の進路希望の状況を常に把握できるか。
生徒指導	基本的生活習慣が確立されていない者がいる。規範意識の醸成が十分とは言えない。	生徒指導全般において、未然防止を目的とした生徒指導の展開を目指せるか。全職員の共通理解・共通認識による共通実践を目指せるか。
特別活動	部活動加入者が減少し、活動実績も停滞している。また、生徒主体の行事や活動への取り組みも不十分である。	生徒が主体的に取り組める学校行事の企画・運営ができるか。全員部活動加入制に対する指導の徹底を図り、部活動の活性化に努められるか。生徒会活動・学校行事・部活動の活動状況について、HP等を利用し広報活動に努められるか。
教職員の勤務状況	在校等時間が非常に長くなっている教職員がいる。	業務量の適切な管理を行うことができるか。また、業務の効率化や超過勤務に対する教職員の意識改革を図り、1か月の時間外在校等時間を45時間以内、1年間の時間外在校等時間を360時間

別紙様式 1 （高）

		以内に収められるか。
--	--	------------

4 中期的目標

- (1) 学校設定科目の主旨を十分に活かし基礎学力の向上を目指す。また、I C Tを効果的に活用し、生徒の興味関心及び希望進路に応じた指導の充実を図るとともに、特色ある学校づくりに努める。
- (2) 学習指導、進路指導、生徒指導等を一層充実させるとともに、特別活動を活性化させ、知徳体バランスのとれた人材を育成する。
- (3) 地域との密な連携協力を推進するとともに、本校から積極的な情報発信を通して、地域から支持され信頼される学校を目指し、本校への志願者数の増加に結びつける。
- (4) 文部科学省や県教育委員会から示されている、業務の役割分担・適正化を図るとともに、教職員の勤務時間に関する意識改革や業務の改善に取り組み、時間外在校等時間の減少を目指す。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
教育課程の充実	①【指導方法の改善や学校設定科目(サイ発見・シン発見)に係る取組の充実を図ると共に、令和4年度入学生から導入される新学習指導要領において、生徒の基礎学力の定着と向上、進路目標の達成に対応できる教育課程の構築を図る。】 ・学校設定科目の効果的運用のため、入学生の実情を検証し、現状に合わせた習熟度別編制を行う。 ・各学科それぞれの特色が最大限に発揮できる教育課程の実現を図る。 ・多様な進路希望に応えられる、柔軟性のある教育課程を編成する。
学習指導の充実	②【I C Tを効果的に活用し、分かる楽しさが実感できる授業を展開することで、生徒の主体的な学びを引き出し、進路目標に応じた学力と専門性を身に付けさせる】 ・授業でI C Tを活用し、学習内容の理解促進を図り、学ぶ意欲の向上を図る。 ・確認テスト、実力テストなどで理解度を確認し、補習などを通して個に応じた指導を展開することにより、基礎・基本を確実に定着させる。

別紙様式 1 (高)

	・ R P D C A サイクルにより、生徒の学力を適切に評価し、学習課題を明確にすることにより、学習意欲の向上を図る。 ・ 発展的な問題にも取り組ませるなど、大学等への進学希望を持つ生徒に対する個別指導を充実させることで、さらなる学力向上を図る。 ・ 生徒の実態に応じた I C T 教材の研究、交互の授業参観、教科内の連携・研修等を通して、学習指導の工夫や質的向上を図る。
進路指導の充実	③【三年間を見通したキャリア教育を推進することで、生徒の望ましい勤労観・職業観を育成し、多様な進路目標の実現を図る】 ・ 聞く力、表現する力、進路実現のために必要な態度やマナーなどを身に付けさせる「3年間を見通した指導体制」を構築し、生徒のコミュニケーション力の向上を図る。 ・ 外部講師等の人材を有効に活用するとともに、インターンシップ・デュアルシステムや進路説明会に生徒を主体的に参加させることにより、進路意識の高揚を図る。 ・ 向学心を高め、計画的かつ継続的な課外授業を実施することで、大学進学にも十分対応できる学力を身に付けさせる。
生徒指導の充実	④【基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚に努めるとともに、人間としての在り方生き方に関して考察を深めさせることで、豊かな心の育成を図る。】 ・ 生徒面談、アンケート調査、家庭訪問、ホームルーム活動の工夫を通して生徒理解に努める。 ・ 頭髮・服装指導や遅刻防止等の徹底に努め、基本的生活習慣の確立を図る。 ・ 挨拶・マナーを確実に身に付けさせ、規範意識や社会性の育成に努める。 ・ ボランティア活動を促し、人間としての在り方生き方を考えさせることで、社会の一員として主体的に生活することができるようにする。 ・ 特別指導を充実させ、問題行動の未然防止及び再発防止を図る。

特別活動の活性化	⑤【生徒会活動・部活動等の活性化を図り、充実感・達成感を味わえる、明るく活気ある学校づくりに努める】 ・1年生全員に部活動入部を促し、学校の活性化を図るとともに、規律ある生活態度や自律性に富む生徒の育成を図る。 ・ホームルーム活動、委員会活動や生徒会活動の充実を図り、生徒一人一人が自主的・主体的に参加できるよう支援する。 ・ポートフォリオを充実させ、生徒の学校内外での活動や学びのプロセスを振り替えられるキャリアパスポートを作成すると共に、その活用を通して「自分らしい生き方」を模索する生徒の支援をする。 ・地域の行事やボランティア活動にも積極的に参加するよう生徒を促し、地域との連携を図りながら生徒の活躍する姿を地域に発信していく。
地域連携の推進	⑥【地域との密な連携と交流を推進し、生徒の活躍の機会を拡げるとともに、生徒が活躍する姿を積極的に発信することで、地域から信頼され、期待される活力ある学校を目指す】 ・ホームページの充実を図り、保護者や地域、中学校等への積極的な情報の提供に努める。 ・学校外からの声も積極的に取り入れ、学校・家庭・地域社会が相互に連携・協力した教育を推進する。
働き方改革の推進	⑦【業務の役割分担や適正化、ICTの導入を図るとともに、教職員の勤務時間に関する意識改革や業務の改善に取り組み、時間外在校等時間の減少を目指す】 ・業務の役割分担（基本的には学校以外が担うべき業務、学校の業務だが、必ずしも教師が行う必要のない業務、教師の業務だが、負担軽減が可能な業務）を見直す。 ・勤務時間の管理や適正な勤務時間の設定（勤務時間の把握、登下校指導・部活動・

別紙様式 1 （高）

	学校の諸会議等の適切な時間設定、学校閉庁日）を行い、I C T教材の共有化を進め、勤務時間に関する意識改革と時間外勤務の抑制を図る。
--	--